

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2872100322		
法人名	社会福祉法人 のじぎく福祉会		
事業所名	特別養護老人ホーム のじぎくの里		
所在地	兵庫県高砂市北浜町西浜773番3		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年10月31日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

春夏秋冬と移り行く季節を望める高台にあるグループホームです。特に開放感のあるリビングから見る満開の桜の季節は最高のロケーションです。利用者様は、ゆっくりとした時間の中で、各々にリビングや居室で過ごされています。併設のグループホームの為、他部署との連携や協力があり行事ごとや防災・感染予防対策では大きな強みと考えています。コロナ禍で、おやつ前の口腔体操リズム体操は、利用者様も楽しみにされており、週1回の100歳体操も継続しています。食事面では旬の食材を利用したメニューにしており、行事食や手作りおやつは好評です。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

自然に恵まれた高台にあり、リビングの大きな窓から海までの風景と樹々の四季の移り変わりが眺望できる環境である。季節感のある作品を制作して飾り、花壇や鉢に花を植え、季節に因んだ行事を行う等、季節感を大切にしている。利用者の希望や季節感・行事食を取り入れた手作りの食事を提供し、利用者も準備等に参加している。各種体操やレクリエーションを日課とし、100歳体操やユーチューブも活用し、利用者が楽しみながら機能の維持向上ができるよう取り組んでいる。グループホーム通信や面会・電話等で家族とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いている。総合福祉施設内にあるため、研修・委員会・医療連携・重度化対応・防災・感染症対策等、施設内での体制整備や協力関係が築かれている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のじぎく福祉会の理念・基本方針を基に施設目標・部署目標・個人目標を立てて評価を行い実践に繋げている。	法人の「理念」と4項目の具体的な「基本方針」を作成し、その中に地域密着型サービスの意義を明示している。職員室・ホールに掲示し、毎月の朝礼で唱和し職員に共有を図っている。「理念」「基本方針」を基に、年度の施設目標・部署目標・個人目標を立て、各目標を上半期・下半期で評価し、また、部署の月間目標も朝礼で発表しながら、「理念」「基本方針」の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に属している。 コロナ禍、以前様な地域行事への参加は難しいが施設内から見物できる行事は楽しませてもらっている。	コロナ禍のため、通常地域への外出・地域交流・地域貢献は困難な状況であるが、可能な方法で地域とのつながりを継続できるよう取り組んでいる。地域の自治会に加入し、運営推進会議を通しての連携もある。とんど祭りや秋祭りを施設内から見物し、利用者が地域行事を楽しめる機会を設けている。地域のスーパー・飲食店・宅配業者等、事業所として地域資源を活用している。トライやるウィークの受け入れの再開、福祉避難所としての登録、地域からの相談対応等、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議においてグループホームの様子や活動をお知らせしている。また、認知症についての相談を受けている。		

のじぎくの里

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議の開催は限られているが文章にて報告をして意見を頂くようにしている。	利用者、家族、地域代表(自治会長、民生委員)、地域包括支援センター職員、事業者(施設長・管理者等)を構成員とし、2ヶ月に1回開催している。令和4年度は、5月は集合開催し、7月・9月は書面会議としている。会議開催時は、資料をもとに利用者の状況や事業所の行事等を報告し、参加者と意見・情報交換している。書面会議の際は、議事録を地域代表と地域包括支援センターに郵送している。議事録のファイルを玄関に設置し、公開している。	構成委員として、知見者の参加が望まれます。書面開催の際は、議事録に返信用紙を同封し、返信された意見や情報、また、質問と回答を次回の会議や議事録で共有する等、書面開催でも意見・情報交換できるよう工夫されてはどうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2市2町GH協会連絡会での情報交換や介護保険課担当者へのメールでの問い合わせや電話相談をしている。	運営推進会議を通して、地域包括支援センターとの連携がある。2市2町グループホーム協会の連絡会や講演会を通して、市との連携がある。質問や相談の際には、市の担当者にメールや電話で問い合わせ助言等を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の安全を考えできるだけ身体拘束をしないケアについて考える機会を設けている。	「身体拘束廃止廃止に関する指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。処遇会議の中で「身体拘束廃止委員会」を実施し、自己点検シートによる振り返り、研修資料をもとにしたスピーチロックの説明、事例検討等により、意識付けを行っている。参加できなかった職員を含め全職員に議事録を回覧し周知を図っている。施設全体の「事故対策・身体拘束廃止委員会」にも事業所から参加し、議事録を回覧している。「身体拘束の排除のための取り組みに関する研修」をオンライン研修で全職員が視聴し、研修報告書を提出している。玄関は、夜間以外は基本的には施錠せず、外出の意向があれば職員が対応し、閉塞感を感じないように支援している。		

のじぎくの里

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リモート研修や外部研修に参加をして防止に努めている。	身体拘束廃止と同様に、「高齢者虐待防止に関する研修」(オンライン研修)の実施、委員会での自己点検シートでの振り返り等により、不適切ケアの防止に取り組んでいる。令和4年度は、外部研修の受講も計画している。職員の定着が良く、相談しやすく協力し合える職場環境づくりにより、職員のストレスや不安がケアに影響しないように取り組んでいる。法人として、ストレスチェックの実施や相談窓口の設置も行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	居宅職員に講師依頼をして日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。	令和3年度に、施設内の居宅介護支援事業所の職員による勉強会を処遇会議の中で実施し、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けた。現在は制度利用の事例はないが、以前には、定期訪問時の対応・金銭管理に関する書類等の提供等、制度利用を支援した事例がある。今後も制度利用の必要性や家族からの相談があれば、施設内で連携し支援することとしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については、分かりやすく丁寧な言葉で十分な説明を行い理解と納得をいただいている。	入居希望があれば、管理者が家族の話を傾聴し、グループホームの特徴や料金等を説明し、現在はベランダからの見学で対応している。契約時には、契約書・重要事項説明書・同意書等に沿って、質問に答えながら丁寧な説明に努めている。料金・医療・退居時の対応等について特に詳細に説明し、不安の軽減に努めている。契約の改定については、文書を作成して面会時に説明し、文書で同意を得ている。	

のじぎくの里

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にケース記録の閲覧や日頃のエピソードを交えて話しやすい雰囲気を作り意見や要望を出しやすいようにしている。	利用者の意見や要望は日々の会話の中で聴き取り、ケース記録に記録して共有し、個別支援に反映できるよう取り組んでいる。家族の面会時(ガラス越しに短時間)に職員から近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。写真を多数掲載した「グループホーム通信」の郵送(毎月)、面会時のケース記録の閲覧等により、意見・要望が出しやすいよう配慮している。家族からの意見・要望はないが、事業所から問いかけて、利用者の支援に家族の意向を反映できるよう取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話の中から意見や提案を現場の支援に反映している。	月に1回処遇会議を実施し、職員の意見や提案を利用者のケアや業務等に反映している。会議以外で出された検討事項については、随時、職員の意見を集約して検討し、申し送りノートで共有し、統一したケアや対応ができるよう取り組んでいる。施設内の各種委員会に事業所から担当職員が参加し、意見・提案を運営に反映している。処遇会議や委員会の内容は、議事録の回覧で共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回(上半期・下半期)で個人目標を立て自己評価・他己評価を行うことで自信ややりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じた研修に参加している。		

のじぎくの里

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町GH協会連絡会での情報交換や講演会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりとお茶を飲みながらお話を聞き、本人に安心できる場所と感じてもらえるような関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に話し合いの機会を数回設け、家族が困っていること不安な事 要望に耳を傾けて話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族がどのような生活を送ることを望んでいるのかを聞き取り、今後の方針を決め支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然の流れの中で共に過ごせる時間を大切にしている。特に新しい入居者様とは、本人の動きにあわせて職員が同行することもあり、多くの関わりを持ち、居心地の良い職員・環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、感染対応をしながら短時間だが本人と家族の時間を大切にしている。また、日頃の様子を伝え必要な支援について家族に相談し協力理解をいただいている。		

のじぎくの里

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、外出が難しいが玄関先やベランダと居室で短時間の面会を行っている。家族には、毎月GH通信で様子を伝えている。	馴染みの人や場所について、入居時に把握した情報があれば「アセスメント表」に、入居後の会話で把握した情報は「ケース記録」に記録し共有している。コロナ禍のため通常の交流や外出は休止しているが、家族とはガラス越しで短時間面会ができるよう場所や時間を設定し、毎月の「グループホーム通信」に写真を多数掲載して様子を伝える等、可能な方法で馴染みの関係が継続できるよう努めている。時期を勘案しながら、馴染みの病院や美容院への家族との外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症や理解力に違いはあっても孤立することが無いように職員が工夫をして、利用者同士が身近な関係を作れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同施設特養や老健に移行することがあるので、情報の提供や様子伺いや必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報提供とその時々を言葉や記録に残し一人一人の思いを把握するように努めている。また、困難な場合は、表情や仕草で汲み取るようにする。	利用者個々の思いや暮らし方の希望について、入居時に把握した内容は「アセスメント表」の「生活歴」「希望」「ライフスタイルの意向」等に記録し共有している。入居後の会話で把握した内容は「ケース記録」に記録し共有している。把握した内容を介護計画や支援に反映し、意向に沿った生活を支援できるよう取り組んでいる。現在は全利用者が自己主張できる状況であるが、意向の把握が困難な利用者については、表情や反応等から推察したり、家族からの情報を参考に把握に努めることとしている。	入居後に把握した情報を、その都度「アセスメント表」に追記し、情報の共有と個別支援に活用してはどうか。

のじぎくの里

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族からの生活歴等の情報提供をお願いしている。本人との会話の中でこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後は、時系列での心身の状態・活動面本人の言葉等を記録して本人の現状の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な処遇会議の中で、状態の変化のある利用者については情報を共有してケアの統一を図っている。家族とは、電話や来訪時に現状を伝え、支援方法を相談して経過を報告している。	初回のアセスメントで生活歴・既往歴・ADL・趣味・嗜好・生活習慣・ライフスタイル等を把握し、「アセスメント表」に各項目ごと記載している。課題分析を経て初回の介護計画書を作成し、状況変化がない場合は基本的に短期目標に合わせて6ヶ月おきに見直しを行っている。日常的に介護計画の内容が確認できるように、介護計画書はケース記録ファイルにファイリングし、介護計画に基づいた日々のサービス実施記録を残している。毎月処遇会議で個々の状況・課題・介護計画の適性等を検討し情報共有している。見直しの際はモニタリングと「ケアチェック表」で再アセスメントを行い、処遇会議の中で担当者会議を開催している。担当者会議に参加できない職員は事前に意見・提案等を提出し、本人・家族の意向や要望、必要に応じて医療関係者の意見や助言を反映させ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録(個別記録)に記入し、さらに特変事項は、申し送りノートを活用して毎朝食員間で情報の共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		



のじぎくの里

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できるように努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナで買い物に行けない時のことを考慮して地域の宅配業者を利用している。また、近隣の馴染のお寿司屋やお菓子屋を利用している。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員の方が月1回の訪問診療医を利用されている。病状により専門医のかかりつけ医に家族対応で受診をされている。	契約時に本人・家族から今後の意向を確認し、希望に沿った受診を支援している。提携医療機関から月1回の内科往診、月2回の歯科往診が受けられる体制がある。日頃の健康管理は施設の看護師との連携体制があり、必要時には相談し助言を受けている。通院時は基本的に家族の同行を依頼し、適切な医療が受けられるよう医療機関に口頭説明や、時系列で記録した書面で情報提供を行っている。受診内容・結果は「ケース記録」「申し送りノート」に記録し、情報共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師への応援要請はかのように日々の情報や気づきについては看護師に相談している。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院中は医療機関のソーシャルワーカーや家族・GHとの情報交換や関係作り家族の相談に努めている。	入院時には「介護サマリー」と電話で医療機関に情報提供している。現在面会ができないが、医療機関のソーシャルワーカーを訪問したり、電話連絡で情報収集し、家族とは来訪時等に情報交換して連携を図りながら、早期の退院に向け支援している。入院中に把握した情報は「ケース記録」「支援経過記録」に記録として残し、処遇会議で現状報告・検討を行い共有している。退院時には医療機関より「看護サマリー」の情報提供を受け、退院後の適切な支援に活かしている。	

のじぎくの里

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、早い段階から家族と話し合いを重ね、本人・家族の思いを聴き、GHですることができることを十分に説明し、かかりつけ医の協力を得ながら一緒に方針を共有して支援に繋げている。また、運営推進会議で高砂市や地域包括に相談することもある。	契約時に、重度化に向けて事業所としてできる事・できない事を丁寧に説明し、家族の理解を得ている。重度化を迎えた段階で主治医から家族に現状説明があり、状態変化に応じて家族・医療関係者と共に繰り返し話し合いを重ねている。話し合いの内容は「ケース記録」「支援経過記録」に記録として残し、職員間で共有している。家族の意向を尊重し、法人施設を含め施設・病院等について情報提供する等、現状に適した環境での生活について検討しながら、チームで支援に取り組んでいる。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の訓練を受けたり施設看護師の指導を受けている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全を確認できるまでは、施設待機を基本としている。施設の防災委員会で、年間を通して防災計画を立て実施している。施設は、福祉避難所として登録している。	防災委員会の企画で年2回、昼間・夜間想定 の災害訓練を利用者も参加して実施している。今年度は9月に「火災発生を想定した避難訓練」を日中想定で実施し、年明けに施設合同で夜間想定 の連携訓練を予定している。勤務シフトの工夫で全職員が訓練に参加しており、防災委員会が企画する「「消火器訓練」「通報訓練」「緊急連絡網訓練」「AED訓練」、「非常災害時の対応に関する研修」で学ぶ機会を設けている。施設は「福祉避難所」に登録され、地域との協力体制を築いている。災害に備えた非常用食料・備品等は施設合同で防災委員会が管理し、事業所でも3日分程度の備蓄を準備している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室トイレ設置の個室でプライバシーの確保はできており、本人や対人への配慮・気配りをしている。また、表札もあり居室を間違わない工夫をしている。	施設全体の年間計画に沿って、「プライバシー保護」「接遇」「認知症ケア」に関するオンライン研修を実施し、人格尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。「身体拘束廃止委員会」での自己点検シートによる振り返り、全体朝礼での施設長からの注意喚起等により、意識向上を図っている。契約時に利用者の写真使用についての同意を文書で得て、個人ファイルは職員室の施錠棚に保管する等、個人情報・プライバシー保護を実践している。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りに努め、日頃より信頼関係を築き、本人が自己決定できるように働きかけている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、毎日の体操やレクリエーション参加を希望にそって支援している。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や室温に応じた服装ができるように支援をしている。また、体形に合う衣類の準備を家族にお願いしている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物を取り入れた献立を手づくりしている。利用者様の力量に応じて一緒に参加できるように支援している。	利用者の希望や季節感、行事を反映させた献立を事業所で作成し、献立内容は施設の管理栄養士が栄養アドバイスを行っている。地域の宅配業者から届けられる食材で手作りの食事を提供し、利用者が好みや力を活かして野菜の下準備、テーブルやお盆拭き等に参加できるよう、感染対策に努めながら支援している。現在は外食行事を中止しているが、地域店から寿司の出前を利用したり、誕生日会では本人の希望食とおやつでお祝いする等、変化を楽しむ機会を設けている。職員と利用者が一緒に同じ食事を楽しみ、家庭的な雰囲気が感じられる。	

のじぎくの里

自己 者三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理士より毎月献立表をみてもらい助言をもらっている。食事量や水分量は記録に残し支援に繋げている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後・就寝前には、1人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援を行っている。歯科訪問診療医への口腔状態の情報提供をしている 夜間は、義歯を預かり義歯洗浄を施行。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用の方には、排泄パターンを把握してさりげない声掛けや誘導を行いトイレでの排泄の支援をしている。トイレは、各居室にありプライバシーは確保できている。	アセスメント表の「ライフスタイル」で個々の自立度や意向を把握し、現在は全利用者にてトイレでの排泄支援を行っている。「トイレに関する記録」に排泄状況・排泄パターンを記録し、必要な利用者には声掛け誘導を行い、排泄の失敗や排泄用品の使用を減らせるよう努めている。処遇会議で個々の支援方法・課題・排泄用品の適性等を共有・検討し、本人・家族の意向を反映させながら現状に適した支援に取り組んでいる。リハビリパンツから布下着に変更できた事例もある。各居室にトイレが設置されプライバシーが守られる環境があり、羞恥心に配慮した誘導時の声掛けを心掛けている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	偏りのない食材を使った料理や果物・乳製品は毎日食卓に並んでいる。また、水分摂取が少ない方には、飲み物を工夫している。運動面では、毎日のラジオ体操や週1の100歳体操を実施している。		

のじぎくの里

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に至るまでの声掛けを大切に、気持ちよい入浴ができるように一人ひとりにそった支援をしている。	アセスメント表の「ライフスタイル」で個々の入浴に対する意向や状況を把握し、週2回の入浴を基本に支援を行っている。個浴で個々のペースに合わせてゆっくり安全に入浴できるよう配慮し、身体状況に応じてシャワー浴や2人介助でも対応している。入浴拒否があった時は、無理強いせず、声掛けやタイミングの工夫で個々に沿った支援を行っている。入浴が楽しめるよう、入浴剤を使用したり、ゆず湯や菖蒲湯で季節感を取り入れている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に居室で体を休めることができる。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の処方薬の内容は、いつでも閲覧できるようにしている。薬の内容変更については、送りノートや配薬箱にわかるようにメモを貼り情報の共有をしている。薬については薬剤師にいつでも相談・質問ができるようにしている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に家族からの生活歴の等の情報提供があるが、家族の面会時に詳しく知りたいことを尋ねたり本人との会話の中でこれまでの暮らしの把握に努めている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、感染対応のために外出の支援はできていないが、1人1人の希望に沿った散歩に出かけられる支援に努めている。	通常は地域行事、小学校音楽会、お花見、季節を楽しむドライブ、買い物や外食等、積極的に外出行事を企画し支援している。現在は広いベランダや中庭で季節の花を職員と一緒に育てたり、敷地内での散歩やお花見等で外気浴や気分転換の機会を設けている。外出自粛の状況下、地域の協力を得て、どんと祭りや秋祭りを施設内から見物し、地域行事に参加する機会づくりを行った。	

のじぎくの里

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持されている方はあるが、使用するというよりは持っているという安心感が強い。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯保持の方が1名、自由に家族と連絡を取り合っている。その他の方は、家族からの電話で話をされている。毎月、手紙が届く方もある。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは四季折々の自然の景色を見ることができる。壁には、利用者と作成した季節の作品を掲示している。また、日頃の様子の写真を毎月掲示している。心が穏やかになるような曲を流している。	リビングは3方向の大きな窓から季節の風景が楽しめ、自然光で明るく開放的な雰囲気がある。心地良い曲が流れる中、利用者はテーブル席や少し離れたソファで寛いだり、併設するキッチンで食事の下準備に参加したり、テーブル席で洗濯物たたみを行う等、家庭的な雰囲気や生活感が感じられる。テーブル席にはシールドを設置し、定期的に事業所全体の換気とアルコール消毒を行い、感染予防に努めている。廊下の壁に、利用者と一緒に制作した季節の装飾品や利用者の日常の写真等が掲示され、季節感や温かみを感じられる。また、廊下は直線で広く、日々のリハビリ歩行や、納涼祭等のレクリエーション行事等にも活用されている。居室やトイレ等に大きくわかりやすい表示を工夫し、利用者の混乱がないよう配慮している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースを利用してソファやテーブルを置いている。		

のじぎくの里

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた馴染のあるものを持参していただき安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	各居室は大きな窓からの自然光で明るく、洗面所・トイレ・ベッド・クローゼット・消灯台が設置されている。家族の協力を得て、使い慣れた寝具やテーブル・椅子・テレビ、また、大切にしている仏壇・家族の写真・人形類等が持ち込まれている。入居後にレクリエーションで制作した自作の作品等も飾られている。個々の身体状態に応じて家具の配置を工夫し、安全に自立した生活が継続できるよう支援している。広いベランダで季節の花を栽培し、外気浴の場として活用している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「できること」「わかること」の状態把握に努めることで、できるだけ自立した生活が送れるように視覚や動線などを工夫している。		